

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

◆其の六十三
長崎路

江戸時代、徳川幕府によって江戸を中心に街道と宿駅が整備されました。街道は五街道と脇街道があり、市域には、市の東側を南北に縦断する脇街道の一つ「長崎街道」、山家宿で長崎街道から分岐し、小郡市の松崎宿を通り、熊本から鹿児島に至る「薩摩街道」、市内を北西から南東に横断し、博多から二日市宿を経て甘木・日田へ至る「日田街道」がありました。この3本の街道が交差するように通り、山家宿・原田宿・二日市宿の宿駅が置かれ栄えていました。



街道の分岐点に建てられた「追分石」（歴史博物館に展示）

江戸時代、徳川幕府によって江戸を中心に街道と宿駅が整備されました。街道は五街道と脇街道があり、市域には、市の東側を南北に縦断する脇街道の一つ「長崎街道」、山家宿で長崎街道から分岐し、小郡市の松崎宿を通り、熊本から鹿児島に至る「薩摩街道」、市内を北西から南東に横断し、博多から二日市宿を経て甘木・日田へ至る「日田街道」がありました。この3本の街道が交差するように通り、山家宿・原田宿・二日市宿の宿駅が置かれ栄えていました。

小倉と長崎を結ぶ九州最大の幹線道路である「長崎街道」。実は、幕府の正式な呼称は「長崎路」といいます。別名は他にも、肥前街道・豊前街道や小倉道（路）などがあり、福岡藩領内では筑前六宿街道や冷水道とも呼ばれていました。



現在も残る長崎街道（山家宿）

問い合わせ先／文化財課

